



Title	フランス語における職業・役職名詞の女性形化についての考察
Author(s)	石丸, 久美子
Citation	大阪大学言語文化学. 2001, 10, p. 75-87
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77996
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

フランス語における職業・役職名詞の女性形化についての考察*

石丸久美子**

En janvier 1998, l'Académie française a lancé un appel auprès du Président de la République, Jacques Chirac, en protestant contre certaines femmes ministres du gouvernement français qui revendiquent et ont mis en pratique la féminisation de leur titre. La féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre fait l'objet d'une très vive discussion en France.

Aujourd'hui, de plus en plus de femmes se lancent dans diverses activités professionnelles ainsi que dans la politique. Comment alors désigner les femmes qui occupent des professions qui étaient autrefois le monopole des hommes ? Doit-on les appeler au masculin ou au féminin ? Il est nécessaire de discuter de ce problème aujourd'hui. En 1981, Yvette Roudy, ministre des Droits de la Femme, s'est mise en colère en voyant sur son papier à lettres l'en-tête « Le Ministre » : « Je n'ai pas changé de sexe en devenant ministre ! ». La députée RPR du Maine-et-Loire, Roselyne Bachelot-Narquin, note que « masculiniser une profession, c'est une manière de faire disparaître les femmes des lieux de pouvoir ». Faut-il donc féminiser les noms de métiers, de titres, de grades et de fonctions ? Mais, pour les féminiser, une question se pose inévitablement : Y a-t-il un rapport entre le sexe et le genre grammatical ?

Dans cet article, nous estimons qu'il y a un rapport entre le sexe et le genre grammatical d'un nom de métier ou d'un titre et qu'ils se reflètent réciproquement, en reprenant l'avis de Fujita (1990) : « Il n'est pas facile d'argumenter scientifiquement, mais le sexe des noms est profondément enraciné dans l'esprit et l'intuition poétique des Français et on ne peut pas dire que le rapport entre le sexe et le genre n'est pas arbitraire. » Et, nous jugeons nécessaire de féminiser les noms de métiers, de titres, de grades et de fonctions pour suivre les changements de la société. D'abord, nous examinerons

* La féminisation des noms de métiers, titres, grades et fonctions en français (ISHIMARU Kumiko)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

des études existantes. Ensuite, nous donnerons un aperçu historique sur le mouvement et les polémiques de la féminisation. Et enfin, nous analyserons les usages dans la presse française en dépouillant des magazines ou des journaux français.

1 はじめに

「Madame la ministre は文法的誤用（« un contresens grammatical »）である。」このように、フランス政界において、女性大臣が呼称の女性形使用を主張した（つまり、男性形 le ministre で呼ばれたくはないと主張した）ことに対して、1998 年 1 月、アカデミー・フランセーズが異議を唱えた¹⁾。このことをきっかけに、フランスでは、職業・役職名詞の女性形化についての論議が盛んになっている。

近年、政界をはじめとする、さまざまな職業領域において、女性の存在が急速に拡大している²⁾。それに伴い、この「大臣」の例のように、今までは、主に男性のみであった職業領域に女性が進出するとき、女性形を持たない、男性形しか持たない職業・役職名詞は、女性に対して使う場合、どうすればよいのか。女性形を作るべきなのか、使うべきなのか、それとも否か。1981 年、女性の権利大臣であった Yvette Roudy は、自分が使う便箋に印刷された頭書が男性形で « Le Ministre » と書かれているのを見て、「私は、大臣になるのに、性別を変えてはいない！」と憤慨したという。また、メヌ・エ・ロワール県の RPR（共和国連合）議員である Roselyne Bachelot-Narquin は、「職業を指す名称を男性形にすることは、権力の座から、女性を追い出すということを意味する。」としている³⁾。女性形を作るべき、使うべきなのか。この問題については、自然性 (sexe) と文法性 (genre) との関係について考えることが不可欠であろう。

本論文は、「名詞の「性」は、科学的論証はしにくいものの、フランス人の想像力や詩的直感のなかに深く根を下ろしていることも事実であり、sexe と genre の関係が恣意的であるとは言えない。」（藤田 1990）ということを用いて、人間社会においては、自然性と文法性は非常に関係の強いものであり、社会の変化に伴い、女性形を作ることや使うことは必要である、という見解に立つこととする。そして、その上で、今日までの女性形化に関する論争について、その経過やさまざまな意見を総括すると共に、最も世相を反映しているであろう、新聞・雑誌における女性形化の現状を考察することにより、

¹⁾ LE FIGARO (1998), le 9 janvier.

²⁾ フランスでは、労働力人口のうち 45% を女性が占めており、高級管理職では、34%、10 人以上の社員を持つ会社社長では、19% を女性が占めている。(1998 年) (L'EXPRESS, le 3 juin 1999, n.2500) .また、25 歳から 49 歳までの女性の 80% が就労している。(LE MONDE, le 7 juillet 1998)

³⁾ MADAME FIGARO (1998) , pp.80-81.

今後、フランス語がどのように変化していくのか、あるいは変化しないのかを考えようとするものである。

2 先行研究と本研究の意義

2.1 先行研究

まず、女性形化の現状を調査したものとしては、HOUDEBINE-GRAVAUD 監修 (1998) が挙げられる。これは、著者がその代表メンバーであった、1984 年から 1986 年まで存在した、職業名詞の女性形化に関する用語委員会 (Commission de terminologie relative à la féminisation des noms de métiers) の活動について詳説している。そして、また、最近の状況調査として、求人案内、職業案内、広告、子供向けの本における女性形の使用調査、アンケート調査を行っている。さらに、他の言語 (ケベックのフランス語、マルティニークのクレオール語、ロシア語、アラブ語、韓国・朝鮮語そしてハンガリー語) における職業名詞についても言及している。

YAGUELLO (1998) は、政界における、役職名詞の女性形使用という問題について述べている。そして、過去の例、1997 年時点の、ジャーナリズム、政党における「大臣」の女性形 (la ministre) の使用状況を調査しつつ、考察している。

昨今の職業名詞の論争を最も相対的に捉えているのは、ROUSSEAU (1998) であろう。これは、職業名詞の女性形化に関連するさまざまな問題を「名詞の女性形化に関する 10 の質問」として 10 の項目に分け、検証している。

そして、最新のものとしては、COMITÉ DE FÉMINISATION, CNRS (Centre National de la Recherche Scientifique) - INaLF (Institut National de la Langue Française) (1999) が挙げられる。これは、女性形化委員会 (国立科学研究センターと国立フランス語研究所によって構成されている) によって作成された、職業・役職名詞女性形化促進のためのガイドブックで、職業・役職名詞を 2000 語以上収録している。

2.2 先行研究の問題点と本研究の意義

以上の先行研究もそれぞれ意義深いものであるが、今までの職業名詞の女性形化に関する論争について、論争の経過を総括的に調査したものではなく、また、最も、世相を反映し、社会に影響を与えるであろう雑誌・新聞における慣用調査は、未だほとんど行われていない。

それゆえ、本論文では、論争の経過と現状調査を中心に見ていきたい。具体的には、現在、雑誌や新聞において、どの程度まで女性形化が進められているのか、特に、どの名詞形態が女性形化されているか、されていないかを調査し、フランス語の現状、今

後の傾向を考えてみたい。

3 現在までの論争の経過

3.1 政界において

職業名詞の女性形化に関する論争は、冒頭で述べたように、1998年1月のアカデミー・フランセーズの抗議によって現在盛んになっているが、これはあくまでも再燃であって、この問題の原点は、1981年まで溯ることが分かった。以下に挙げるのが、現在までの大まかな経過である⁴⁾。

- | | |
|----------------|---|
| 1981 | 大臣 Yvette Roudy (ministre des droits de la femme) が、自分が使う便箋に印刷された頭書が男性形で、le ministre と書かれているのに抗議 « Je n'ai pas changé de sexe en devenant ministre ! » |
| 1984-86 | 大臣 Yvette Roudy により、職業名詞の女性形化についての委員会 (Commission de terminologie pour la féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre 代表: Benoîte Groult) が設立される |
| 1986.3.18 (官報) | 首相 Laurent Fabius が、委員会による報告を通達。行政書類、文書での女性形の使用を奨励⇒ほとんど効果を持たず |
| 1991.5 | Edith Cresson が初の女性首相に就任 (« Madame le Premier ministre » と呼ばれるのを好んだ) |
| 1998.1.8 | 3名のアカデミー・フランセーズ会員が、女性大臣への女性形使用に対して抗議 |
| 1998.3.8 (官報) | 首相 Lionel Jospin が、女性形の使用を奨励すると同時に、女性形化の問題を専門的に審議するよう、専門用語・新語委員会 (Commission générale de terminologie et de néologie) に要請 |
| 1998.10 | 専門用語・新語委員会が、職業名詞の女性形化に関する調査報告書 (Rapport sur la féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre) を提出 |

3.2 女性形化に関して出された意見

3.2.1 アカデミー・フランセーズの意見

1998年1月8日に、Maurice Druon, Hélène Carrère d'Encausse, Hector Bianciotti の3名のアカデミー・フランセーズ会員は、フランス大統領宛てに、抗議文を送った。そこで、

⁴⁾ 年表は、MADAME FIGARO (1998)、YAGUELLO (1998)、1998年3月6日通達 (1998年3月8日官報) を参照して筆者が作成。

アカデミー会員は、男性形は、無標 (le genre non marqué) であるが、女性形は有標 (le genre marqué) であり、そのため、男性形は広義であって、総称として、男性、女性共を示し得ると述べている。そして、それゆえ、アカデミーの女性会員が *academicien* と呼ばれるのと同様、女性大臣にも男性形を使うべきだと主張している。

3.2.2 専門用語・新語委員会 (COMMISSION GENERALE DE TERMINOLOGIE ET DE NEOLOGIE) の意見

首相 Lionel Jospin の要請で進められた、専門用語・新語委員会による職業、役職、称号、肩書名詞の女性形化に関する調査の報告 (1998 年 10 月)⁵⁾。委員会としては、アカデミー・フランセーズの意見に近く、男性形は無標 (le genre non marqué) であり、総称形であるのに対し、女性形は有標 (le genre marqué) ということをサポートしている。しかしながら、委員会が意見を出し、係われるのは、政界における用語のみであって、一般社会における慣用については干渉すべきではないと主張している。そして、職業名詞と役職名詞との違い、つまり、*métier* と *fonction* との違い (個人的なものか、社会的なものかという違い) に注目し、職業は個人に直接関わるものであるので女性形を容認してもよいが、役職は、社会的なものであるので女性形化をする必要はないのではないかと提案している。

3.2.3 その他の意見

Josette Rey-Debove (言語学者、辞書 *Le Robert* の編者)

Rey-Debove は、1998 年 1 月 14 日付の *Le Monde* 紙上で、アカデミー・フランセーズに厳しく反論している。そして、文法性と自然性の関連から、男女両形を作ることは、フランス語における女性形を作る規則で、95 % の確率で可能である (それはすでに、1986 年に委員会が証明済みだ) と主張している。

Agnès Callamard (アムネスティ・インターナショナル、ロンドン事務局コーディネーター)

アカデミー・フランセーズの考えに対峙するものとして、Agnès Callamard は、男性名詞 *l'homme* を使った *le droit de l'homme* (人権) というのは、1789 年に出された人権宣言においては、当時、女性の権利はうたわれていなかったという歴史的事実が明らかにするように、必ずしも、男女両性を意味として含むわけではないし、総称となっている

⁵⁾ COMMISSION GENERALE DE TERMINOLOGIE ET DE NEOLOGIE, *rapport sur la féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre*, octobre 1998.

わけではないとする。そして、最近では、ユネスコにおいては、できる限り、「*droit de la personne*」という表現を使うように採択されたし、1993年の国連による世界人権会議においては、「*droit de l'homme*」の代わりに、「*droits humains*」あるいは「*droits de la personne humaine*」という表現が用いられたと *Le Monde Diplomatique* (1998年3月号) 紙上で述べている。

4 現状調査：雑誌、新聞における慣用調査

4.1 調査対象

調査は、フランスにおいて、発行部数の多い雑誌、新聞（全国紙）を選び、三ヶ月（1999年5月～7月）に渡って調査した。調査に用いたものは以下の通りである。（カッコ内の数字は、発行部数）⁶⁾

雑誌

Paris Match (812,223/1998年) 週刊誌。写真報道が定評。

L'Express (539,562/1998年) 週刊誌。知識人層を読者とする。

Elle (332,719/1996年) 女性週刊誌。

新聞

Le Monde (394,059/1998年) フランスを代表する日刊紙。外交・国際面が定評。

Le Figaro (370,646/1998年) 保守派の日刊紙。

4.2 調査対象

女性形をどのような形とするか、どのように作るかは、1986年に委員会によって作成された「職業、役職、称号、肩書名詞の女性形化規則」⁷⁾ (1986年3月の通達。1998年3月の通達でも奨励された。) を基準として調査を行った（資料1参照）。

4.3 調査結果および分析

調査では、上記の雑誌・新聞から、女性に対して使用されている職業・役職名詞を合計700例採取した。そのうち、444例（63.4%）が女性形、196例（28.0%）が男性形、60例（8.6%）が語形不明で、フィガロ紙を除く、調査出版物すべてが、すでに女性形を多く用いていることが分かった。以下、対象出版物ごとに考察を行う。

注：以下、女性形、男性形、語形不明として示している。

⁶⁾ *L'EXPRESS*, le 3 juin 1999, p.79, FREMY (1998)

⁷⁾ フランス共和国官報 1986年3月16日 4267ページ (1986年3月11日通達)

4.3.1 *L'Express* *Paris Match* *Le Monde*

これら出版物は、女性形化を進めており、実際、ほとんどの職業・役職名詞が女性形にされている。特に、公職においては大半が女性形にされており、*ministre* に関しては、資料2にあるように、常に女性形が使われていた。以下、その例を委員会の「女性形化規則」（資料1）を参考に区分して挙げている。

「女性形化規則」Ⅰ型（語尾が^s無音の「-e」の名詞は男女同形となる。）

- (1) les amis socialistes de Martine Aubry, **la ministre de l'Emploi**, ont ressorti des tiroirs l'idée de...(*Paris Match*, le 20 mai, p.111) 「大臣」
- (2) Bernard Sainz et Bertrand Lavelot sont interpellés et mis en examen par **la juge** Michèle Colin, dans la foulée. (*L'Express*, le 13 mai, p.20) 「判事、裁判官」
- (3) **La commissaire** chargée du dossier, Marta Cavalliere, commence à explorer la piste du trafic d'organes. (*Le Monde*, le 18 mai 1999, p.1) 「警視」

Ⅱ型（男性形語尾が^s無音の「-e」以外の母音である名詞は、女性形では「e」が付く。）

- (4) ...après la visite en Irak d'une mission d'information parlementaire conduite par Roselyne Bachelot, **députée** RPR de Maine-et-Loire. (*L'Express*, le 1^{er} juillet, p.7) 「国会議員」
- 男性形が^s「-é」で終わるものは、ほぼ確実に「-ée」の形の女性形にされていた。

Ⅲ.i 型（男性形語尾が子音の名詞は、「-eur」の語尾のものを除いて、男女同形となる。）

- (5) **La chef** de file des Verts préfère évoquer l'échéance d'octobre et évoque, dès à présent, quelques ministrables. (*Le Monde*, le 16 juin 1999) 「長」

Ⅲ.ii 型（男性形語尾が子音の名詞は、「-eur」の語尾のものを除いて、「e」を付ける。ただし、最終音節にアクセント記号をつける、あるいは、語尾の子音を重ねる場合もある。）

- (6) **Avocate** à Casablanca, Fadela Sebtî lutte pour les droits des femmes à travers ses activités professionnelles,... (*Le Monde*, le 2 juin, p.36) 「弁護士」
- (7) Triomphalement annoncée il y a deux ans par la princesse Laure de Beauvau-Craon, **présidente** de Sotheby's France,... (*L'Express*, le 27 mai, p.68) 「会長」
- (8) Sur la liste du FN-MN devaient figurer, outre MM. Le Gallou et Martinez, Marie-Caroline Le Pen, fille du président du FNUF et **conseillère régionale** d'Ile-de-France... (*Le Monde*, le 2-3 mai, p.9) 「地方評議員」

IV. ii 型（男性形語尾が「-teur」のものは、「t」が元の動詞に含まれない場合、女性形は「-trice」となる。）

(9) **Réalisatrice** à CAPA depuis dix ans, Maria Roche quitte l'agence d'Hervé Chabalier pour rejoindre l'équipe de Jean-Luc Delarue..., elle a été nommée **rédatrice en chef** de la partie reportages de... (*Le Monde, TELEVISION*, le 8 mai, p.2) 「監督、ディレクター」

しかし、今なお、異論の多い形態等については、慎重なところもあり、女性形化における困難を示している。以下に挙げたものが、その良い例ではなからうか。

「博物館（美術館）学芸員」について、*Paris Match* 誌は女性形 « conservatrice (du musée) » を使用するのに対し、*L'Express* 誌は男性形 « conservateur » を使用している。

(10) Yannick Lintz, **conservatrice du musée**, a noté sa ressemblance avec « Vénus et Mars », une toile de l'Art Institute de Chicago attribuée au peintre vénitien... (*Paris Match*, le 1^{er} juillet 1999, p.122) 「学芸員」

(11) Selon Catherine Grenier, conservateur au Musée national d'art moderne et une des deux commissaires de l'exposition britannique,... (*L'Express*, le 22 juillet 1999, p.52) 「学芸員」

女性形にされず、男性形のままであったもの

特に、語尾が « -eur » で終わるものでは、女性形にされず、男性形のままだものが多かった。確かに、これらは、異論の多い形態であるが、しかし、以下のどの例も、委員会が提案するように、冠詞を女性形にすることはできるのではなからうか。

(12) Mais Madame le procureur du Tribunal pénal international (TPI) n'est pas du genre à se laisser impressionner. (*Elle*, le 31 mai 1999, p.6) 「検事総長」

(13) Le Pr Jacques Rouessé, cancérologue, directeur du Centre René Huguénin, et le Dr Nadia Benslimane Maurel, tabacologue, lancent un cri d'alarme. (*Paris Match*, le 27 mai 1999, p.81) 「医師」

(14) Le Pr Eliane Gluckmann nous explique l'extrême utilité de cette nouvelle banque. (*Paris Match*, le 20 mai 1999, p.81) 「教授」

また、*Le Monde* 紙は、(3) の例のように、「警視」においては « la commissaire » と、女性形を使用しているにもかかわらず、次のように、「高等弁務官」では、« le haut-commissaire » と男性形を用い、決して、« la haute-commissaire » と女性形にすることはしない。これは何故であらうか。

(15) Le 29 mai déjà, le haut-commissaire Mme Sadako Ogata avait qualifié de « bonne nou-

velle » l'intention de Belgrade d'accepter les principes du G8 pour un règlement de la crise. (*Le Monde*, le 4 juin 1999, p.4) 「高等弁務官」

(16) ... a souligné, à la veille de ce voyage, le porte-parole de l'Elysée, Catherine Colonna. (*Le Monde*, le dimanche 27 - lundi 28 juin 1999, p.5) 「スポークスマン」

(17) Au camp de Cegrane (40 000 réfugiés, dont 60% d'enfants) , à la tête d'une douzaine de soldats, le capitaine Ellie Goldsworthy, de l'armée britannique, a, elle aussi, mission de recueillir des témoignages pour le tribunal. (*L'Express*, le 10 juin 1999, p.41) 「大尉」

(18) ..., le lieutenant Aigle est très réservé parce qu'il est en phase d'apprentissage d'un métier pour lequel il est long et difficile d'acquiescer... (*Paris Match*, le 1^{er} juillet 1999, p.112) 「中尉」

このように、(12)～(18) の例を見てみると、現在も男性形が使用されているものは、今まで特に男性に独占されていた職業・役職であると考えられるのではなかろうか。

4. 3. 2 Elle

女性誌 Elle は、女性形化に非常に積極的で、以下のような他の出版物では見られないような、革新的な女性形をも提示する。

(19) **la soldate israélienne** (le 3 mai 1999, p.150) 「兵士」

(20) C'est maintenant au tour de Gudrun Schyman, **la sémillante leader** du Vänsterpartiet, parti de gauche, de confesser publiquement sa dépendance à l'alcool. (le 24 mai 1999, p.30) 「党首、リーダー」

(21) Boycottée par une profession à 99,99 % mâle, **la matador** ne trouve plus de place tauro-machique prête à l'accueillir... (le 7 juin 1999, p.22) 「マタドール、闘牛士」

(22) Waltraud Pfaff, **policrière** allemande de 43 ans, pourrait bien être une nouvelle victime des sectes. (le 5 juillet 1999, p.14) 「警察官」

以下は、出版物（社）による女性形化の違いの特に顕著な例といえよう。同じ話題を扱った、3つの記事である。

(23) C'est elle qui donnera le coup d'envoi des festivités : Kristin Scott Thomas, **maîtresse des cérémonies** à Cannes, voilà une idée judicieuse. (*Elle*, le 10 mai 1999, p.14)⁸⁾ 「(式典の) 司会」

⁸⁾ YAGUELLO (1989) によると、ケベック州のフランス語研究所では、*maîtresse* の形は、非常に受け入れられにくいとして、*la maître* の使用を勧めている。また、COMITÉ DE FÉMINISATION (1999) では、*maîtresse* は、既に慣用ではないとして、*maître* の形を使うよう勧めている。

(24) Comme on monte au front, Sophie pénètre sur la scène où l'attendent les dix membres du jury, Kristin Scott Thomas, **la maître de cérémonie**, et... des millions de téléspectateurs. (Paris Match, le 3 juin 1999, p.52)

(25) La belle Anglaise est maître de cérémonie de l'ouverture et de la clôture du Festival. (Le Figaro, le 12 mai 1999, p.28)

4. 3. 3 *Le Figaro*

Yaguello (1998) でも、la ministre (「大臣」の女性形) を唯一使っていない新聞と調査されていたように、今なお、フィガロ紙は、他の雑誌、新聞と対照的で、女性形化に消極的であった。しかしながら、女性形化への態度の軟化を示しうる、いくつかの例を見つけることができたことは、注目すべきことであろう。

その中でも、顕著なものが、一つの記事において、男性形と女性形が同時に併記されるというフィガロ特有の現象である。これは、つまり、フィガロ紙の記者、編集者もまた、男性形のみを使うことに違和感を覚え、躊躇していることの表れといえるのではなかろうか。

(26) « **La nouvelle directrice générale** de France 2 veut axer le développement de la chaîne sur les magazines et la fiction. »

Michèle Cotta, directeur général dé France 2, ne souhaite pas une rupture fondamentale avec la politique menée par ses prédécesseurs,... (économie, le 6 juillet 1999, p.XII) 「局長」

(27) Comme tous les pensionnaires de son entraîneur (ou doit-on écrire, désormais, « **entraîneuse** » ?), Valérie Dissaux, elle est revenue en grande forme après une éclipse assez longue. (le 20 juillet 1999, p.12) 「調教師、コーチ、トレーナー」

また実際、今回の調査において、フィガロ紙でも、女性実業家に関する記事等においては、女性形使用が見られたうえ、(28) のように、「académicienne」「アカデミー会員」の女性形（常に、アカデミー・フランセーズの側に立っているフィガロ紙だということに！）さえもつけることができた。これは、明らかにフィガロ紙も変化しつつあることの象徴といえる。

(28) Le président d'Yves Saint Laurent, Pierre Bergé, **l'académicienne** Hélène Carrère d'Encausse,..., figurent notamment dans la promotion du 14-Juillet de l'ordre de la Légion d'honneur. (le 15 juillet 1999, p.1) 「アカデミー会員」

5 おわりに

以上、職業・役職名詞の女性形化についての論争の経過をまとめると共に、フランス出版物において女性形化は、どのような現状にあるのかということを考察した。その結果、フィガロ紙を除く、調査出版物すべてが、女性形を多用し、女性形化を進めていること、そして、常にアカデミー・フランセーズの側に立っているフィガロ紙でさえも、女性形を使用することがあることが分かった。よって、今後も、女性形定着までの「揺れ」(糸魚川 1999)の時期⁹⁾は必要であろうが、フランス語では、確実に、女性形化が進む傾向にあるといえよう。

現在、ラルース辞典においては、ministre「大臣」という項目には、「s'emploie parfois au féminin dans la langue familière : la ministre」 「時々、口語では、女性形が用いられる：la ministre」と注が付けられている¹⁰⁾。これが、注ではなくなり、また、現在、ministre nm.と記されている m. (masculin)「男性」の記号が明記されなくなる(つまり、ministre が、男女両性で使われる名詞ということになる)のも、そう遠いことではないのではなかろうか。

職業・役職名詞の女性形化の問題は、政界において論議が盛んであることから、言語的なだけでなく、非常に社会的、政治的、イデオロギー的なものであるといえる。それゆえ、今後さらに、社会学的観点からの考察も行っていきたいと考えている。また、本論文においては、フランス・フランス語のみを扱ったが、カナダ、ベルギー、スイス等のフランス語と比較してみることも必要かと考える。

資料1 職業、役職、称号、肩書名詞の女性形化規則¹¹⁾ (筆者訳出)

・女性限定辞の使用：une, la, cette

I. 語尾が無音の «-e» の名詞は男女同形となる。une architecte, une comptable...

注：・接尾辞 «-esse» は、現代フランス語では使用されない。une poétesse...

II. 男性形語尾が無音の «-e» 以外の母音である名詞は、女性形では «e» が付く。

une chargée de mission, une déléguée...

III. 男性形語尾が子音の名詞は、«-eur» の語尾のものを除いて、

i 男女同形となる。une médecin...

⁹⁾ 糸魚川 (1999) によると、フランス語と同じロマンス語に属するカステーリャ語においては、1980 年代が職業名詞の語形にばらつきが見られた、「揺れ」の時期とされている。

¹⁰⁾ HOUSSIN (1997), *Petit Dictionnaire Français*, LAROUSSE (1998) このことに対し、作家 Benoîte Groult は、「何故に「口語」でしか女性形化できないのでしょうか。文語は男性形だけに限定されているというのですか。」と反論している。

¹¹⁾ 区分けのために、I-V の数字は、筆者が便宜上、付したものである。

ii « e » を付ける。ただし、最終音節にアクセント記号をつける、あるいは、語尾の子音を重ねる場合もある。une agente, une huissière, une mécanicienne...

IV. 男性形語尾が «-teur» のもの

i « t » が元の動詞に含まれる場合、女性形は «-teuse» になる。une acheteuse...

ii « t » が元の動詞に含まれない場合、女性形は «-trice» となる。une animatrice...

注：・今日の慣用では、「t」が元の動詞に含まれる場合でも、「-trice」という女性形になる傾向がある。une éditrice...

・場合によっては、「-trice」という形が今日認められないものもある。その場合は男女同形となる。une auteur...

V. 男性形語尾が «-eur» のもの

i 元の動詞が分かる場合、女性形は «-euse» となる。une vendeuse, une danseuse...

注：・女性形接尾辞 «-esse» は、現代フランス語では使用されない。une demander-esse...

ii 形態、意味的にも元の動詞が分からない場合は、男女同形が勧められる。

une proviseur, un ingénieur, un professeur...

資料 2 職業・役職名詞データ表

(E.=Elle 誌, EX.=L'Express 誌, P.=Paris Match 誌, F.=Le Figaro 紙, M.=Le Monde 紙)

計：700 例

女性形	男性形	不 明
444 63.4%	196 28.0%	60 8.6%
(une, la)	(un , la)	
ministre 71 (E. 4 EX. 5 P. 2 M. 60)	ministre 22 (F. 22)	ministre 5 (F. 1 M. 4)

主要参考文献

CALLAMARD, Agnès (1998) : « Le sexisme à fleur de mots », *Le Monde Diplomatique*, mars, p.28.

COMITÉ DE FÉMINISATION, CNRS (Centre National de la Recherche Scientifique) - INaLF (Institut National de la Langue Française) (1999) : *Femme, j'écris ton nom...*, Paris, La Documentation française.

COMMISSION GENERALE DE TERMINOLOGIE ET DE NEOLOGIE (1998) : *Rapport sur la féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre*, octobre, Paris, (<http://www.culture.gouv.fr/culture/dglf/cogeter/feminisation/sommaire.html>) .

L'EXPRESS (1999), le 3 juin, n.2500.

FREMY, Dominique et Michèle (1998) : *Quid 1999*, Robert Laffont.

HOUDEBINE-GRAVAUD, Anne-Marie (sous la direction de) (1998) : *La féminisation des noms de métiers*, Paris, l'Harmattan.

HOUSSIN, Monique (1997) : « Le féminin entre crochets, entretien avec Benoîte Groult », *Regards*, n.21, février.

MADAME FIGARO (1998) : « le bon genre des mots », n.725 du samedi 18 au vendredi 24 juillet.

REY-DEBOVE, Josette (1998) : « madame « la » ministre », *Le Monde*, le mercredi 14 janvier, p.16.

ROUSSEAU, Jean (1998) : *Madame la Ministre : La féminisation des noms en 10 questions*, CIEP (Centre International d'Etudes Pédagogiques).

YAGUELLO, Marina (1989) : *Le sexe des mots*, Paris, Belfond.

—— (1992) : *Les mots et les femmes (essai d'approche socio-linguistique de la condition féminine)*, Paris, Payot, 3^e édition

—— (1998) : *Petits faits de langue*, Paris, Seuil.

糸魚川美樹 (1999) 「「la abogado」から「la abogada」へ～カステイーリャ語における活動を表わす名詞と性について～」『ロマンス語研究』32、日本ロマンス語学会

藤田知子 (1990) 「言語と性差～フランス語名詞の「性」(genre)について～」『異文化コミュニケーション研究』第3号、神田外語大学

ラベル・フランス (LABEL FRANCE) (1998) : 12月号 (34号)、フランス外務省